

平成23年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ イシイ ヒデコ
氏名 石井 英子

研究期間 平成23年度

研究課題名 病院における新人看護師のプリセプター研修の構築

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	石井英子	看護学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

医療の高度化や在院日数の短縮化、医療安全に対する意識の高まりなど国民のニーズの変化臨床現場で必要とされる臨床実践能力と看護基礎教育で修得する看護実践能力との間には乖離が生じつつある。看護基礎教育と臨床現場との乖離を埋めるためには、看護基礎教育の充実を図るとともに、臨床実践能力を高めるための新人看護職員研修の実施内容や方法、普及方策について検討し、実施に移すための指導指針の作成をめざすことを目的とする。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

9人の看護師に対して、一人ブレインストーミングによるカード書きのCUDBAS(クドバス)手法を使用した。クドバスは A Method of Curriculum Development Based on Ability Structure の略であり、能力構造に基づくカリキュラム開発手法の翻訳である。

職業教育カリキュラムの方法のうちで、プリセプター指導のCUDBASチャート作成のために、一人の看護師に30枚の仕事の観察、作業分析によって必要な能力項目を抽出し、これをもとにカリキュラム内容を整理する方法を取り入れた。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

1) 一人ブレインストーミングによるカード書き

看護師のプリセプター研修のクリニカルラダー作成のための CUDBAS マニュアルにそって、現状の看護師研修について一人ブレインストーミング(カード書き)を実施した。ブレインストーミングの出席者は、6人であり、一人30枚程度を記入してもらった。一人で自問自答しながら、思い付くまま書いてもらった。①何ができればよいか。語尾は「～ができる」②何を知っていればよいか。語尾は「～を知っている」③どんな態度をとればよいか。語尾は「～の態度がとれる」ただし、人格的なものや性格などは除いて書いてもらった)

所要時間は1枚につき、1分程度で、いろいろな角度から書いてもらった。

その結果から、①の何ができればよいかは、57枚、何を知っていればよいかは、61枚、どんな態度をとればよいかは、28枚であり、計146枚であった。平均24.3枚であった。どんな態度をとればよいかが一番少なかった。

2) 小集団活動によるマトリックス作成

CUDBAS 作業の大半は小集団活動による仕事と能力のマトリックスづくりである。この過程は、能力項目の記載内容が明瞭になり、それに関する記載が正しいか、妥当かどうかを判断した。その結果、プリセプター指導の CUDBAS チャート作成およびクリニカルラダー評価リスト作成を作成した。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①看護師	②プリセプター	③クドバス	④研修
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今回は、各施設や病院で実施している新人看護職員の研修のなかでも、新人看護職員の指導者の立場にある看護師が、日々行っている指導内容を点検し、指導者としての役割を再確認する場としたいと思い実施したものである。

・成果としては、プリセプター指導の CUDBAS チャート作成およびクリニカルラダー評価リスト作成を作成した。

・今回参加した病院の看護師にクリニカルラダー評価表をアンケート調査形式にして回収した。この結果は、今後の活動として取り組む予定である。

今回の参加者と各施設のプリセプターが認識している能力・資質の評価の違いを引き続き分析検討していく予定である。